

医療的ケア児等の実態調査について

障がい者支援課
信州大学

1 調査の目的

医療技術の進歩等を背景に医療的ケアを必要とする在宅の障がい児者や重症心身障がい児者（以下「医療的ケア児等」という。）が増加しているが、医療的ケア児等がどのくらいいるのか、どのような支援をどの程度必要としているのか全県的には把握できていない。

このため、県内における医療的ケア児等について、どんな医療行為を必要としている児が、どこの市町村にどのくらいいるのかなどを調査することで、災害時の避難行動や生命維持に必要な支援を把握、災害対策等の施策充実に活用する。

2 調査対象者

〇〇圏域に住所のある方で、①②のいずれかに当てはまる方

①判定スコアにある医療的ケア（表1）を必要とする20歳未満の児。

②大島の分類(図1)の1～4までに該当する20歳未満の児。

3 調査内容

①居住市町村名、②在宅又は入院、③必要としている医療行為、④要望事項

4 調査方法

県と調査委託予定先の信州大学と協議して決める。

5 今後のスケジュール

6月から9月末までに、調査を実施し、回答結果を集約する。

10月末までに、集約した回答から、現状と課題を抽出する。

[参考資料]

(表1)判定スコアにある医療的ケア

・レスピレーター管理・気管内挿管、気管切開
 ・鼻咽頭エアウェイ・酸素吸入・頻回の吸引
 ・ネブライザー使用・IVH・経管（経鼻・胃ろう含む）
 ・腸ろう・腸管栄養・接続注入ポンプ使用（腸ろう・腸管栄養時）
 ・継続する透析（腹膜灌流を含む）
 ・定期導尿・人工肛門

